

事業コード	H27-建-新-03		区 間	● 国庫補助 ○ 県単独			
事業名	地方道路交付金事業(改築)		部 局 課 室 名	建設部 道路課			
事業種別	二次次改築(現道拡幅)		班 名	調整・企画管理班 (tel)018-860-2483			
路線名等	主要地方道 秋田八郎潟線		担当課長名	佐藤 和義			
箇所名	秋田市山内		担当者名	備前 亨			
プランと連関	政策コード	03	政 策 名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略			
	施策コード	05	施 策 名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進			
	指標コード	04	施策目標(指標)名	生活道路の機能強化			
1. 事業の概要							
事業期間	H 28 ~ H 35 ( 8 年)		総事業費	11.0 億円	国庫補助率 7/10		
事業規模	延長 L=1,500m 幅員 W=6.0(8.5)m (1.25-3.00-3.00-1.25)						
事業の立案に至る背景	<p>主要地方道秋田八郎潟線は、秋田市手形を起点に、仁別、南秋田郡五城目町を経て八郎潟町の国道7号に至る全長48.5kmの主要幹線道路であり、秋田市街地での都市骨格道路や生活道路としての機能を有する。また、起点から秋田市仁別までは四季を通じて余暇活動のできる自然観光拠点へのアクセス道路として重要な路線となっている。</p> <p>当該区間の車道幅員は狭く、急カーブも連続しているほか、急勾配区間も存在しており、車両の安全な走行に支障を来している。また、秋田市のハザードマップにおいて当該工区の一部が浸水想定区域となっているほか、起点側の松原橋は老朽化が進んでいるため、早期に整備を実施する必要がある。</p>						
事業目的	<p>○現道拡幅整備による安全で円滑な交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・線形改良及び幅員の確保による車両等通行の快適性・安全性向上</li> <li>・法面からの雪崩対策、旭川の浸水対策など防災面の機能強化</li> <li>・老朽橋対策</li> </ul>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H 28 年度	H 29 年度	H 30 年度	H 31 以降
	事業費		1,100,000	32,000	74,000	141,500	852,500
	経費内訳	工事費	852,500				852,500
		用補費	141,500			141,500	0
		その他	106,000	32,000	74,000		0
	財源内訳	国庫補助	770,000	22,400	51,800	99,050	596,750
		県 債	297,000	8,640	19,980	38,205	230,175
その他							
一般財源	33,000	960	2,220	4,245	25,575		
事業内容			各種調査、道路詳細、橋梁予備設計	用地測量、橋梁詳細設計	用地買収、建物補償	本工事	
調査経緯	<p>○平成22年度 道路概略設計</p> <p>○平成24年度 道路予備設計</p> <p>○平成26年度 道路概略設計、道路予備設計</p>						
上位計画での位置付け	○第2期ふるさと秋田元気創造プラン重点戦略(観光・交通戦略)の「生活道路の機能強化」を推進する事業						
関連プロジェクト等	<p>○第12次秋田市総合計画</p> <p>○第5次秋田市総合都市計画マスタープラン</p> <p>○主要地方道秋田八郎潟線田中工区 道路改良事業(平成25~26年)</p> <p>○主要地方道秋田八郎潟線松原工区 道路改良事業(平成26~29年)</p>						
事業を取り巻く情勢の変化	○松原町内会等より道路整備の要望書が提出されている。(平成22年)						
事業効率把握の手法	指 標 名	県道改良率					
	指 標 式	各市町村役場から30分以内到達圏域の人口比率					
	指 標 の 種 類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目 標 値 a	97.2 %		データ等の出典	道路課調べ		
	達 成 値 b	98.6 %					
	達 成 率 b / a	101.4 %		把握の時期	平成 27 年 4 月		

## 2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	○車道幅員が5.5mと狭く、曲線半径が100m未満の急カーブが連続している。さらには縦断勾配が6.9%の急勾配区間も存在していて、視距不足による旅行速度の低下等車両の安全な通行に支障を来している。 ○防災点検による要対策法面が存在し、雪崩による通行規制も発生していることから、道路整備により冬期の車両の安全な通行を確保する必要がある。	20 点
緊 急 性	○第5次秋田市総合都市計画マスタープランの中で秋田八郎瀧線を通るバスを、山内・仁別地域住民の唯一の足として位置づけており、早急な県道の整備促進を図る。 ○当該工区起点側以南及び終点側以北は整備済みとなっており、一連の効果を発揮するために早期に事業化する必要がある。○起点側の松原橋は昭和42年の架橋から50年近くが経過し、橋脚躯体の劣化、基礎の洗掘等が進んでいるため、早急に対策を取る必要がある。	20 点
有 効 性	○秋田大付属病院へのアクセスが改善され、救命救急体制の強化が期待される。 ○秋田市災害ハザードマップにおいて浸水想定区域となっており、旭川の流量が220m <sup>3</sup> /s(1/20年確率)まで増加した場合に道路の一部区間が冠水するため、早急に整備を行う必要がある。	15 点
効 率 性	○事業の費用便益比は1.30であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 9.0億円 ・総便益の現在価値 12.0億円 ○計画交通量は1,600台/日である。	15 点
熟 度	○松原町内会等より道路整備の要望が出されている。	15 点
判 定	ランク ( ● I ○ II ○ III ) 判定ランク I であり、事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	85 点
総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 評定結果から事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	

## 3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
	当該事業区間は、急カーブが連続するほか、急勾配区間も存在し、車両の安全な運行に支障を来しているとともに、秋田市ハザードマップにおいて、一部が浸水想定区域になっているなど、防災上の課題も指摘されている。そのため、安全で円滑な交通確保の観点から線形改良の緊急性は高く、効率性も高いことから、事業実施の1次評価は妥当である。

## 4. 財政課長意見

意見内容	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
当該区間は狭い幅員や急カーブが連続し、さらには急勾配な区間が存在するなど、車両の安全な通行に支障を来している。 また、秋田市災害ハザードマップにおいて、当該路線と並行する旭川の流量が増加した場合に、道路の一部区間が冠水すると想定されており、事業実施の必要性は認められる。	

## 5. 最終評価（新規箇所選定会議）

総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
	事業の実施は妥当である。

## 6. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

計画的な実施に努める。
-------------

## 7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。
--------------

評価種別 新規箇所評価  
 適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

事業コード ( H27 - 建 - 新 - 03 )  
 箇所名 ( 秋田市山内 )

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	20	20	・最小半径 39m ・最急勾配 6.9% ・冬期堆雪巾なし 計3項目
		・車道幅員<5.5m	2箇所	15		
		・最小半径<100m	1箇所	10		
		・最急勾配>5% ・冬期堆雪巾なし	0箇所	0		
		道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	15	0	
		・現道の混雑度 $\geq 1.0$	4件該当	12		
		・現道の旅行速度 $\leq 30\text{km/h}$	3件該当	9		
		・現道の事故率 $\geq 50$ 件	2件該当	6		
		・通学路指定で歩道なし	1件該当	3		
		・重大交通事故が発生	該当項目なし	0		
計		35	20			
緊急性	道路をとりまく環境等	関連事業の有無	あり	10	10	・第12次秋田市総合計画、 第5次秋田市総合都市計画 ・田中、松原工区道路改良 事業
		・県の主要プロジェクト	なし	0		
		・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業				
		緊急度の高い課題の有無	あり	10	10	・道路防災点検箇所：6箇所
		老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	なし	0		
		計		20	20	
有効性	道路の位置づけ	生活圏30分形成道路等	該当する	5	5	
			該当しない	0		
		救急医療施設へのアクセス道路	該当する	5	5	秋田大学医学部付属病院
			該当しない	0		
		地域防災計画上重要な道路	該当する	5	5	秋田市災害ハザードマップ
			該当しない	0		
計		15	15			
効率性	事業の投資効果等	費用便益比 (B/C)	1.0以上	10	10	B/C=1.30
			1.0未満	0		
		計画交通量	1,000台/日以上	5	5	1,600台/日
			500台/日以上~1,000台日/未満	3		
			300台/日以上~500台日/未満	1		
			300台/日未満	0		
計		15	15			
熟 度	地元の状況	地元ニーズ	文書要望あり	10	10	松原町内会等より要望書あり
			口頭要望あり	5		
			要望なし	0		
		地元の協力体制	あり	5	5	
			なし	0		
		計		15	15	
合 計				100	85	

2. 判 定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		